

# フルトン男声合唱団 創立55周年記念演奏会

フルトン

フルトン男声合唱団 バリトン

2022年12月8日

フルトン男声合唱団の5年ぶりの定演であり、「創立55周年記念演奏会」でもある大きな催しに因み、私は微力ながら大人券@1,000、学生券@500のチケット55枚を知り合いの方に買っていただきました。その内、当日になって急病によるめまい発作1名、県外での親友の葬儀参列1名を除いて、53名の方々が会場へお見えになり、好評のお言葉をいただきました。ご協力いただいた皆様にひたすら感謝あるのみです。

昨今のコロナ状況下、第8波も懸念される中で、前回、前々回に比べて、入場者は良くて3分の1程度かと思いましたが、意外と多くの方々が会場へ足を運んでくださりまして、有難いことでした。ちょうどコロナ禍もやや下火になりつつあるこの時期、タイミング良く55周年を祝うことができ大変ラッキーでした。司会はMRTラジオパーソナリティ 園田潤子さん。

可能な感染対策はすべて講じて演奏会に臨みました。ステージ上ではマスクを外すことが許されたので、久しぶりに圧迫感もなく自由に歌うことができました。ただ、賛助出演の小学生は残念ながらマスク着用での演奏となりました。



会場のメディキット県民文化センター〔アイザックスターンホール〕(写真下)は、客席数1,818、国産としては日本最大(パイプ総数4,047本)のパイプオルガンを備えた素晴らしいホールです。通常練習は毎週水曜の夜、メディキット地下の練習室を利用して行っていますが、ほとんど中止することもなく順調に練習できたのは幸いでした。

**55th anniversary**

令和4年11月27日(日)

14:00開演 (13:30開場)  
メディキット県民文化センター (県立芸術劇場)  
[アイザックスターンホール]  
【一般】1,000円 【中・高校生】500円 【小学生以下】無料

**Program**

第1部 男声合唱のための唱歌メドレー  
「ふるさとの四季」  
編曲：藤田隆一郎  
指揮：中園 哲也 ピアノ：米倉 美穂

第2部 男声合唱アラカルト  
川の流れるように、思い出のスカイライン  
他数曲

第3部 賛助出演  
宮崎市立江南小学校合唱部  
Believe 他

第4部 男声合唱組曲  
「月光とピエロ」  
作詞：船口 大 作曲：清水 橋  
指揮：中園 哲也

■主催 フルトン男声合唱団  
■後援 宮崎県教育委員会、宮崎県教育委員会、宮崎県合唱連盟、宮崎日日新聞社、NHK宮崎放送局、MRT高橋放送、山崎テレビ放送

お問い合わせ フルトン男声合唱団 実行委員長 広畑雅一 TEL:090-8622-3592  
※当口は駐車場の混雑が予想されるため、公共の交通機関をご利用ください。

フルトン男声合唱団は、故大古殿宗三さん（フルトンさん）の掛け声のもと、1967年11月創立され、宮崎で最も歴史が長いとされています。初代指揮者甲斐勝利さんが亡くなられたあとを継がれたのが中園哲也先生、指揮者の末吉宏成さんと共に団のレベルアップに力を注いで頂いています。

## タダタケさん作曲の団歌で開幕

フルトン団歌「この空と海に生きる」で演奏会の幕を開けました。この曲は2001年、地元宮崎の詩人南邦和氏の作詞、多田武彦先生の作曲により作られました。ブルーのステージ衣装は、団歌にも出てくる宮崎の空と海をイメージしたものです。

### 第1ステージ：ふるさとの四季

1987年混声合唱組曲として出版され、のちに福岡の男声合唱団九州フレッシュメンコアにより2001年に男声合唱として出版された唱歌集です。

### 第2ステージ：男声合唱アラカルト

「思い出のスカイライン」は、宮崎が新婚旅行のメッカだった昭和の時代、えびの高原を歌った懐かしい曲。「フェニックスハネムーン」も宮崎に因んだお馴染みの曲。ミッチー・ミラー合唱団の代表曲「Sing Along」は、フルトンの団歌「この空と海に生きる」ができる前の団歌ともいべき曲。

フルトン男声合唱団 団歌

### 「この空と海に生きる」

作詞 南 邦和  
作曲 多田 武彦

1 この空を見よ	2 この海を見よ
澄みわたる みんなみの大気	陽にひかる みんなみの波濤
おお 蒼穹のかなた	おお 潮騒のかなた
われらの 歌は広がる	われらの 歌は漕ぎゆく
日々の勇氣とともに	日々の憂いととも
われらの歌はある	われらの歌はある
友よ 友よ いざ歌わん	友よ 友よ いざ歌わん
きょうの いのちのために	あすの 希望のために
フルトン フルトン	フルトン フルトン
われらの誓	われらの誓
フルトン男声合唱団	フルトン男声合唱団

団歌 <http://homepage20.music.coocan.jp/clubsong2012.mp3>

### オープニング

〔指揮〕中園 哲也

フルトン男声合唱団 団歌

#### 「この空と海に生きる」

作詞 南 邦和  
作曲 多田 武彦

### 第1ステージ

〔指揮〕中園 哲也 / 〔ピアノ〕長濱 美穂

男声合唱のための唱歌メドレー

#### 「ふるさとの四季」

編曲 源田俊一郎

### 第2ステージ

〔指揮〕末吉 宏成 / 〔ピアノ〕長濱 美穂

「男声合唱アラカルト」

#### 1. 川の流れるように

作詞 秋元 康  
作曲 見岳 章  
編曲 滝野 豊

#### 2. 思い出のスカイライン

作詞 青木 義久  
作曲 服部 良一

#### 3. フェニックスハネムーン

作詞 永 六輔  
作曲 いずみたく

#### 4. 野風増

作詞 伊奈 二郎  
作曲 山本 寛之  
編曲 石倉 健次

#### 5. Sing Along

作詞・作曲 Robert Allen

### 第3ステージ

〔指揮〕兼重 博美 / 〔ピアノ〕鶴田咲弥香

「宮崎市立江南小学校合唱部」

#### 1. さんぽ

作詞 中川李枝子  
作曲 久石 譲  
編曲 富澤 裕

#### 2. ハッピーバースデートゥユー

作詞・作曲 ヒル兄弟  
編曲 寺島 尚彦

#### 3. 晴天

作詞 高階 紀一  
作曲 山下 祐加

#### 4. 気球にのってどこまでも

作詞 東 龍男  
作曲 平吉 毅州

#### 5. Believe

作詞・作曲 杉本 竜一  
編曲 富澤 裕

### 第4ステージ

〔指揮〕中園 哲也

男声合唱組曲

#### 「月光とピエロ」

作詞 堀口 大宇  
作曲 清水 脩

##### I 月夜

##### II 秋のピエロ

##### III ピエロ

##### IV ピエロの嘆き

##### V 月光とピエロとピエレットの唐草模様

< 休 憩 >

〔司会者〕 MRTラジオパーソナリティ 園田 潤子





指揮者  
中園 哲也

都城泉ヶ丘高校卒業後、宮崎大学教育学部特音課程作曲専攻、ウィーン国立音楽大学指揮科・作曲科に学ぶ。作曲を橋本睦生、金田雄志、Ivan Eröd、指揮をKarl Österreicher、Julius Kaimarの各氏に師事。ウィーン日本人学校現地採用講師を勤めた後帰国し、宮崎県内の中学高校の音楽科教諭となる。合唱・吹奏楽、オーケストラの指導指揮、県主催行事式典や新設校の校歌作曲など担当。現在、都城泉ヶ丘高等学校・附属中学校教諭。宮崎県合唱連盟理事長、フルトン男声合唱団指揮者、都城クリスタルコール指揮者。九州・沖縄作曲家協会会員。



指揮者  
末吉 宏成

1990年宮崎市に生まれる。早稲田大学法学部卒業。中学生の時に合唱を始め、力強く響き豊かな男声合唱の歌声に魅せられて男声合唱に傾倒。早稲田大学グリークラブなどで活動した。帰郷後声楽を地村俊政、泊かずよ両氏に師事。宮日音楽コンクール入選。宮崎県オペラ協会会員。中小企業診断士。



ピアニスト  
長瀨 美穂

宮崎県立宮崎西高等学校卒業。  
宮崎大学教育文化学部生活文化課程芸術文化コース卒業。  
ピアノを辛島むつみ、矢野恭子、葛西寛俊各氏に師事。  
2009年よりフルトン男声合唱団ピアニストとして活動。

### 第3ステージ：賛助出演

#### 宮崎市立江南小学校合唱部

3年生から6年生までの子どもたちが、フルトンの創立55周年をお祝いして、ステキなハーモニーを奏でてくれました。

### 第4ステージ：

#### 男声合唱組曲『月光とピエロ』

清水 脩によって1949年に作曲された男声合唱の名曲中の名曲。パンフレットやプログラムに「月光」と「ピエロ」のイメージを配しました。

## 私とフルトンとの出会い

私とフルトン男声合唱団との付き合いを振り返りますと、生来、病弱で音痴の私は、物心ついたころから歌に関しては要するに下手の横好きでした。

田舎の役場に在職中、定年前の58歳の時、何の得手もない身に、「これではいけない！！」と、1997年にフルトン男声の30周年記念演奏会を会場で聴き、感動して即入団しました。

当時、団内には誰ひとりとして知り合いもなく、これでは2～3ヶ月で退団だろうと思っていましたところ、良き指導者とピアニストにも恵まれ、団内での融和は言うまでもなく、居心地の良さに惹かれて、気が付けば25年が経ってしまいました。

その間、2003年には、アメリカ・ヴァージニアビーチ市での国際音楽祭へ団で参加、2006年には日韓友好男声ジョイントコンサートで訪韓しました。

また個人的には、**東海メールクワイアー**に引率されて、東日本大震災発生の年、2011年に宮城県仙台市のカトリック元寺小路教会大聖堂で行われた「**東日本大震災犠牲者追悼ミサ**」に、また2016年に発生した熊本地震では、翌年の「**震災追悼コンサート**」に参加することが出来ました。

私の性格を曜日(もともころ)に例えますと、月・水・金ではなく、火・木・土(寡黙奴)です。生来の無口に加え、上手に話せないため、人との交流を苦手にしておりましたが、男声合唱を通じて、お陰様なことに各地で交流を深めることができました。「犬も歩けば何とやら～」で、この野良犬も行く先々でご縁をいただいております。

主なものを二つあげますと、2年に一度開催されてきた全国規模の「JAMCA演奏会」への参加。関東や関西に加え、札幌や八戸での開催にひとりで参加し、地域の方々と交流しました。

もうひとつは、ここ数年コロナ禍で中止になっていますが、東京国技館で開催される「すみだ5000人第九」への参加です。フルトン団員と二人で2回参加しましたが、その団員が他界後は、宮崎県からひとりで参加し、併せて16年間続けて参加しておりまして、東北や沖縄の方々などと情報を交換し語り合っています。前事務局長さんとの約束で、「田舎の様子を情報として提供して欲しい。」と話され、折に触れて感想を送っていましたが、その後、残念ながらその事務局長さんは急逝されました。

ここ数年、コロナ禍の中でがんじがらめになり、引きこもりの身は、全く身動き出来ず、人と語ることも億劫になってしまいました。在庫豊富な病を抱えて治療に明け暮れるこの83歳の「老いぼれ」は、取り換えの利かない部分品を修理しながら、ひとりで歩ける今のうちに、出来れば野良犬のひとり旅を続けられればと思います。

「生病老死」とか、余命幾ばくを知る由もありませんが、55周年記念演奏会の第4ステージ「月光とピエロ」を歌いながら、「次は5年後、もしかして、これが最後のステージか??？」と、震える足を庇いながら歌いました。

今後は、体調と相談しながら、歌える幸せを求めて、背を丸めながら、老いぼれの道をトボトボと歩いてまいります。

#### 【管理者よりひとこと】

荒さんこと荒川滋さんとは、2005年2月男声合唱プロジェクトYARO会が埼玉で開催した「多田武彦合唱講習会」に遠く宮崎から参加されて以来のお付き合いです。2010年11月に第1回全日本男声合唱フェスティバルが宮崎で開催された際には、荒さんに頼み込んでフルトン男声に押しかけ、臨時団員となってオンステさせて頂きました。その後、いろいろな機会に埼玉の仲間と共に合唱談義を重ね、今では無二の親友となっています。また、折に触れてこのホームページにエッセイをお寄せ頂き、良き常連さんともなっています。「老いぼれ、野良犬、余命幾ばく…」とつぶやきながら、お元気に過ごしておられます。

↓ Click here!

#### 【 荒川 滋 エッセイ 】

- |                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| ▶ (E-132) 荒さんのコロナ禍のひとり言           | 2022年3月31日  |
| ▶ (E-119) 北越 戊辰 戦争戦没者所感           | 2018年12月28日 |
| ▶ (E-106) 「すみだ第九」プラスアルファ          | 2016年3月19日  |
| ▶ (E-103) 戦後70年の節目に～東京ぶらりひとり歩き    | 2015年11月14日 |
| ▶ (E-92) 20年ぶりの沖縄                 | 2013年4月2日   |
| ▶ (E-72) 『荒さんのぶらりある記-その弐』万里の長城へ登る | 2013年4月2日   |
| ▶ (M-72) 心のオアシスを求めて『荒さんのぶらりある記』   | 2006年4月19日  |

Back

「音楽／合唱」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る